

★学校教育目標	考え工夫する人 協力し進んで働く人 自然や人々を大切にすること 心身を鍛えやり抜く人	★重点計画の概要	1 体を育てる力の向上 2 豊かな人間性の育成 3 学ぶ力の定着 4 安全・安心の推進
★目指す学校像（ビジョン）	【めざす児童・生徒像】 基本的な生活習慣を身に付け、挨拶ができる生徒、探究心をもって多様な物の見方・考え方ができる生徒、他者と協働し【めざす学校像】 生徒・保護者との信頼関係を築き、学校・家庭・地域が連携しながら協働活動を推進し、生徒の自己有用感を育む学校【めざす教師像】 熱意に溢れ親身に指導する教師、個性を尊重し多様性を認める教師、切磋琢磨し高め合う教師集団		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
育ち	体を育てる力の向上	運動する機会を増やし、生徒の健康・体力の維持・増進を図るとともに、主体的に体を育てる力の育成を図る。	・部活動、体育的行事を充実させ、生徒の積極的な運動への取組を推進し、体を育てる力の向上を図る。 ・浅川マラソンへ生徒・教員の参加を促進し、地域と連携した体力向上への取組を活性化させる。	4 3 2 1	4 3 2 1	2	4 3 2 1	・教員の部活・行事へのしつかりとした取組が理解できた。 ・コロナの影響など運動能力の低下が懸念される。 ・全校参加の球技大会や浅川ふれあいマラソンなど積極的にを行い、生徒のやる気につなげてほしい。	【分析】「部活動によく取り組んだ」生徒は88%、「運動を積極的に楽しんだ」生徒は77%だった。部活等で運動を積極的にする・しない生徒の2層化が課題である。・休みや学年レクで教師・生徒とが一体となる運動の機会を設け意欲を高めた。・ひのスポによる地域スポーツ（卓球）を展開し都大会出場を果たした。技術面での向上だけでなく、他校の中学生、コーチとの交流を通して向上心・協働性を養った。 【改善策】・「浅川ふれあいマラソン」、学年レクなど、生徒の意欲を引き出し運動できる機会を校内・外で増やしていく。
学び	学ぶ力の定着	校内研究による授業改善の推進を図る。	・校内研究を年5回、そのうち講師を招聘した校内研究を年3回実施し、目標達成のためにICTをより効果的に活用するための授業づくりを研究する。授業がわかる生徒を90%以上に引き上げる。	4 3 2 1	4 3 2 1	1	4 3 2 1	・授業内容や自己学力の数値が良くならないのはなぜか。 ・「授業がわかる」生徒が90%に達しなかったのは残念だ。 ・ICTの効果的な活用してゆとりをもって授業ができると良い。 ・校内研修など教師の頑張りも生徒にも反映するよう期待したい。	【分析】「授業がわかる」生徒は85%（昨年度比-5.6%）。・年5回の研究授業と、夏休みのグループ協議を通して「個別最適な学びと協働的な学び」の実践事例について学ぶ機会を設けた。講師3名の講義により、情報リテラシーや情報モラルに関する教員の意識啓発が図れた。 ・生徒による授業アンケートを用い、自己申告で個々の教師の改善課題を明確化した。校内研修等で個々の教師の授業改善意欲を引き出す。 【改善策】・校内研究の充実を継続し、教科組織、校外の研修への参加等による授業改善の機会を多くもつ。
学び	学力の定着	生徒の学びの多様性に応じた学習の機会を充実させる。	・タブレットPC・図書館を活用した自学自習の機会を拡大するとともに、放課後学習教室（SSR）、ポップコーンタイム、検定試験などの取組を通じて、生徒の学びの多様性を確保する。	4 3 2 1	4 3 2 1	1	4 3 2 1	・この項目のマイナス評価が大変気になる。評価点の低さを十分に考察してほしい。	【分析】「目標を立て計画的に学習している」生徒は60%、「とてもそう思う」生徒は16.7%にとどまった。「目標に向かって自律的に計画・調整を図っている」生徒は7.9%、「自主的な学習に取り組む力が高まった」生徒は7.6%だった。3割から4割の生徒の学習に対する自主性を養うことが課題である。 【改善策】・SSRやポップコーンタイムなど独自の取組を充実させ、各種検定試験を増やし（年6回）学ぶ意欲を高める。ガイダンスや朝学習などを工夫し、生徒の多様な学びを充実させる。
いのち	豊かな人間性の育成	体育祭、合唱祭等の行事を充実させ、生徒の協働的な学びを推進し、所属感・連帯感を高める。	・生徒一人一人が多様な物の見方、考え方を広げ、他者と協働して学校行事・特別活動等に取り組むことを通じて、所属感・連帯感を高める。	4 3 2 1	4 3 2 1	3	4 3 2 1	・感染症を乗り越え、体育祭・合唱祭は素直に楽しかった。全体の結果はマイナスとなっているが、教職員、保護者、3年生は充実感あふれるものだったと思う。1・2年生はもっと頑張りたという思いが数値に出たと思う。 ・2つの行事は達成感を味わえると思うが成果指標が下がり気になる。	【分析】「行事等で所属感・連帯感」が高まった生徒は89%。そのうち、「とてもそう思う」と回答した生徒は45%となり、「部活動によく取り組んだ」（とてもそう思う生徒57%）に次いで高かった。保護者の捉えは96.8%と生徒より高かった。「学校が楽しい」生徒は91%となり、特別活動等の充実が生徒の自己有用感を高めていくことが重要である。 【改善策】 肯定的な捉えではない生徒（約1割）が「学校が楽しい」「学校行事が充実している」と感じられるような活動・協働的な取り組み方法を工夫し、自己満足感や所属意識を高めていく。
いのち	豊かな人間性の育成	地域・保護者との協働的な活動を通して、人とのつながりを大切に思う生徒を育成する。	・地域の方との協働学習（職業調べ・職業体験・地域の方による講話など）を通して、豊かな社会性や望ましい労働観・職業観を育成する。 ・保護者との地域清掃、保護者と教員の交流を推進し、地域とのつながりを大切に思う生徒を育成する。	4 3 2 1	4 3 2 1	3	4 3 2 1	・地域の大人の話が子どもの心に新鮮な感覚で入っていく。地域の一人としての自覚をもち、成長につながったと思う生徒、地域協働学習の評価が上がった生徒が増えて嬉しい。地域愛の育成に期待する。	【分析】「外部講師・地域との交流を通して自分の成長につなげた」生徒は84%、うち3割は「とてもそう思う」と回答した。「係委員会の仕事をし、周りと協力して課題解決に取り組んだ」生徒は82%だった。「多様な物の見方・考え方を養い工夫して生活している」生徒は84%だったとは改めて思った。その結果は、医師、弁護士、薬剤師、保護司など様々な職業の方に触れたことが要因としてあげられる。 【改善策】 今後、地域人材資源を活用し、多面的な物見方に触れる機会を多くもつ。その際、道徳、総合的な学習の時間との関連・充実を図り、指導の効果を上げていく。
いのち	豊かな人間性の育成	地域との協働で防災活動を行うことを通して、地域の一人としての自覚をもち、自己有用感を高めるための活動を充実させる。	・避難訓練などを通して自分のいのちを守り、地域防災活動を通して、地域に役立つ人材を育成し、生徒の自己有用感を高める。	4 3 2 1	4 3 2 1	2	4 3 2 1	・経営重点課題に「地域防災」があったが、生徒・教師の地域防災意識の低下が見られ、結果は残念である。 ・災害時に何をすべきか自分の役割を考えられるよう訓練で学んでほしい。 ・地域合同防災訓練の実施を望む。 ・能登の震災を機に、「命を守る」重要性を生徒も意識してきた。今後も意識向上を図ってほしい。	【分析】「地域防災訓練などを通して自助・共助の意識が高まった生徒の割合は86%（前年度比-3ポイント）となった。保護者の捉えは96%と高かった。被災者の体験を聴く会では、消防士を招聘し、震災の実体験を聴き、助けられたいから助ける側へ自分ができることを考える機会を設けた。 【改善策】 防災訓練だけでなく、「SOSの出し方」、「物乱用防止教室」、「テートDV教室」、「情報モラル教室」、健康教育など命に関わる教育活動を蓄積的に実施し、社会の一員としての自覚と自己有用感を育む取組を充実させる。
安全・安心	安全・安心の推進	不登校生徒・不登校傾向にある生徒への個に応じた支援を充実させる。	・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内特別支援委員会を毎週開催し、不登校に関わる生徒に対する適切な対応策を検討する。 ・ステップ教室・リソース教室などの別室における学習支援や保健室・スクールカウンセラーによる面談などの教育相談を充実させる。 ・わかば教室、メール及びスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター、児童相談所など、関係機関と連携した支援体制を充実させる。	4 3 2 1	4 3 2 1	4	4 3 2 1	・安心・安全の推進の評価が高いことは、先生方の努力が見てとれる。引きこもり防止のためにも不登校支援に更なる力を入れてほしい。 ・関係機関との連携・家庭への支援など、きめ細かくしつかり取組を継続してほしい。	【分析】「個別の支援が充実している」生徒・保護者ともに92%。カンガルーの支援員を1名増やし、開設日も2日から4日に増やした。個別指導計画の改善を検討しながら、個々の生徒の実態に合わせた学びの機会を保障することが重要である。毎週1回の支援委員会では、事前資料をもとに効率よく支援への具体策が検討できた。 【改善策】 個別支援の充実を本校の強みとし、特別支援コーディネーターを中心とする支援委員会の組織的機能を高める。8%の肯定的な捉えをしていない生徒のため、SSRやカンガルー、リソースルームなど、多様な学びを充実させる。
安全・安心	安全・安心の推進	いじめの防止・早期発見・早期解決を図るとともに、生徒一人一人の悩みや相談に寄り添う教育を推進する。	・学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの防止・早期発見・早期解決を図り、いじめを許さない環境づくりを目指す。 ・生徒個々の悩みや相談に親身になって話を聞く。	4 3 2 1	4 3 2 1	1	4 3 2 1	・教員・保護者（学年ごと）のいじめの捉えの差が気になった。いじめを許さない強い姿勢の対応を望む。 ・自由記述のいじめ（いやがらせ）は学校は認知しているが、学校が楽しいと感じていない生徒の把握と対応をどうしていくかが課題である。	【分析】「先生は悩みや相談に親身に寄り添っている」生徒は86%、保護者の捉えも91%だった。「学校生活が楽しい」生徒は91%、うち4割が「とてもそう思う」と回答したの成果であった。 【改善策】 14%の生徒は肯定的な回答ではないため、誰もが安心して生活できる環境を整えることが課題である。「いじめの早期発見・組織的対応、教育相談機能の充実（いじめ対策委員会）や校則の見直しなどを今後も実行していく。」「いじめ防止への意識づけ等、生徒主体で自治的に活動できるような未然防止の取組を工夫する。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。